

令和4年度あしたのまち・くらしづくり活動賞 内閣総理大臣賞受賞

京都・丹波の山里60戸の挑戦 —みんなで取り組んだ地域の活性化—

京都府南丹市 天引区の活性化と未来を考える会

はじめに

「天引は、変わった」、「むら」の古老がしみじみと語りました。それは「むら」の活性化に、みんなで取り組んだ10年間を振り返り、思わず口をついて出た言葉でした。

10年前の天引

10年前、京都府・大阪府・兵庫県と境を接する、戸数60戸ほどの山里・天引は、人口減、少子高齢化、山林田畑の荒れが目立ち始めていました。同時に、暮らしの個別化により地域住民のつながりは薄れ、困難さばかりが目につき、無力感や自信の喪失が広がっていました。加えて、「出る杭は打たれる」「発言し

ても変わらない」「よそ者は肩身が狭い」「むらの役職は男性中心」など今なお残る古い村型社会が、地域を変えていこうとする主体を生み出す上で大きな障害になっていました。

転機到来

転機が訪れたのは、2012年4月でした。半年の議論を経て、私たちは、「天引区の活性化と未来を考える会」（全住民参加組織）を立ち上げます。この会を軸に、それまでの自治会長任せではできなかった、新しい取り組みを実行に移しました。

会議のルールづくり

毎夜公民館にばかりが灯るほど会議は増えました。そこで、元気で気持ちの良い会議にしよう、ルールを決めました。

- ①自由に発言する
- ②人の発言をけなさない
- ③今までの前例に囚われない
- ④すぐに実現できなくても夢を語る

このルールは間違えな意見交換を生み出しました。

天引応援団の結成

「むら」に残るものだけで頑張ると、仕事が増え、しんどくなります。そこで、「むら」出身者で「天引応援団」を作りました。故郷を思う気持ちは同じ。大きな力になりました。

活性化マップづくり

どんな天引を目指すのか、アンケートやワークショップで出された意見をイラスト版「天引活性化マップ」にまとめました。活性化で目指す天引の姿がイメージ豊かに描かれました。達成した事柄には○を付けています。

足元のお宝再発見の取り組み

お宝をまとめた「天引再発見マップ」、天引の良さを集めた写真集「あまびき」、「お宝」選りすぐり写真集「天引10撰」を作りました。「これ、本当に天引?」、そんな声も聞かれました。「10撰」の説明板も設置しました。

集落内外の交流を深める イベントの取り組み

まず「集まる」、集まれば理屈抜きに、「楽しい」「美味しい」「しゃべれる」「ほっとできる」そんなトーンを大切に多彩なイベントに取り組んでいます。①10トラックの荷台をステージにしたコンサートとその後のホテル観賞をセットにした「ほたるコンサート」、②納涼祭を兼ねた「松明」、③故郷にみんなが帰ってくる秋の「運動会・大懇親会」、④新年の「とんど」などです。⑤そんな中、「むら」の居酒屋「一品会」も誕生しました。

活性化の核、「天引むくむく市」

2016年、地元の物産を販売する「天引むくむく市」を立ち上げました。美味しい米や畑で採ったばかりの野菜はもちろん、炭やシイタケの原木、工夫を凝らした加工食品も出品され、有志が自主的に運営する、6軒の屋台も並びます。販売所と屋台のコラボは大好評で、買い物を済ませた人たちがゆっくりくつろいでいけます。この雰囲気が好きというリピーターも増えました。特に、地元のおばあちゃんたちの絶好のしゃべり場となり、「これ、無くさんといてや」と絶大な支持があります。「出品することが生きがいになった」「月2回『むら』の人たちが顔を合やすこ



活性化の目標を可視化した、「あまびき活性化マップ」



コンサートとホテル観賞をコラボした「ほたるコンサート」(6月)



第2, 第4日曜オープン「むくむく市」では地元及び出身者有志が出店する屋台が並び



「むくむく市」でのおばあちゃんたちのしゃべり場





「むら」のことがよくわかると好評の月刊紙、「あまびき元気ニュース」

- 「むら」の発行は「むら」の風通しを格段に良くし、「むら」の出来事への関心を高めました。
- 天引流むらづくりの型**
- 取り組みの中で大切にしてきた10個の教訓を紹介します。
- ①何はともあれ、みんなが集まる
 - ②「楽しい」「美味しい」「喋れる」「ほっとできる」を大切にする
 - ③それぞれの持ち味を生かした取り組み方に気を遣う
 - ④仕事のように「きっちり」やることを強調せず、アバウトさを寛容する

地域の活性化を進める力とは

「10年前の天引」のところで、「古い村型社会が、地域を変えていこうとする主体を生み出す上で大きな障害になっていました」と指

- 地域の活性化とは何か**
- 地域の活性化を考えると、売り上げや来訪者数などの数値アップだけを指標にせず、地域の人たちの絆の深まりや満足度の高まり、自尊感情や意欲の向上、自治意識の伸長、民主的な人間関係の広がり、地域外の人々を受け入れる受容力の高まりなどに注目することが大切だと思います。
- ⑤時間はかかっても話し合いを続け、お互いを知ろうと努める
 - ⑥何より、みんなの自主性、やる気を大切に
 - ⑦情報をみんなで共有する
 - ⑧一部の者でどんどん進めて、「形」を整えてしまうことを避ける
 - ⑨「あなたは〇〇係だからやってね」と言っただけから降ろすような運営方法に陥らないようにする
 - ⑩情報を特定のところが独占してしまうことを避ける

地域の活性化を進める力とは

「天引区の活性化と未来を考える会」

事務局 原田 久

- 摘しました。
- 活性化に取り組んだ10年間は、この壁をどう乗り越えるかに挑戦した年月でもありました。その挑戦をまとめて報告を閉じたいと思います。
- ①会議のルールの確認は、「むら」の年長者や有力者の意向を付度することのない、自由な発言を保障しました。
 - ②女性が「むら」の意思決定の場で活躍しています。「活性化の会」を切り盛りする「事務局員」6名中3名は女性。「むくむく市」の責任者、「ニュース」の編集長は女性です。女性の力の発揮なくして、私たちの地域の元気はありませんでした。
 - ③天引応援団は「よそ者」とされた人たちに門戸を開きました。
 - ④「あまびき元気ニュース」の発行は、情報の風通しが悪かった「むら」にさわやかな風を吹かせました。
- 私たちの経験が示しているのは、「やらされている」を避け、みんなの自主性を尊重すること、かつ、地域に残る古い村型社会のくびきを取り除くことで、人々の中に自主性や意欲・連帯が生み出される、その事実にもっと目を向け、挑戦することが地域活性化の大切な課題になっているということです。

- 貴重な動植物、地域の伝統文化・技術を守り継承する**
- ①集落内を流れる水路の生き物調査に8年間取り組み、国の特別天然記念物オオサンショウウオや京都府の準絶滅危惧種マツカサガイを発見し、保護活動に発展しました。
 - ②破損した水路の石積の修復を、技術継承を

「あまびき元気ニュース」の発行

毎月、「あまびき元気ニュース」が各家庭に届きます。10年間発行し続け、現在101号になりました。かつては情報が「むら」の役員止まりのことも多かっただけに、「ニュー



希少生物の棲む、水路の石垣の補修 平和堂財団環境保全活動助成事業「夏原グラント」助成事業

- 安心感を産む、便利屋さん、お買い物デイ**
- 高齢者世帯が増える中で、便利屋さんとお買い物デイが喜ばれています。
- ①便利屋さん、「家の周りの草を刈ってほしい」「壊れた雨どいを直してほしい」、など些細な困りごとに、30分ワンコインで駆けつけます。
 - ②お買い物デイは、希望者を募り、専用車で月1回、町のスーパーまでお買い物に行きます。「買い物も楽しいが、行き帰りの車中のおしゃべりが楽しい」と喜ばれています。困った時には頼れる、そんな雰囲気があるにつながっています。

農地をみんなで守る

農林水産省の制度を活用し、共同作業で農地や水路の保全に取り組んでいます。個人任せで放棄地になっていた圃場が見事に蘇っています。

移住者を迎える取り組み

毎月、空き家や移住者の情報を交換する会議を開いています。ここ数年で2組が移住され、企業が宿を1軒オープンされました。



半世紀ぶりに復活した炭焼き